

## はじめに

愛知県が平成28年12月に実施した「愛知子ども調査」によると、保護者の所得が低いほど、学校のない日の昼食を「ひとりで食べる」と答えた子どもの割合が高いことがわかりました。

そのような子どもたちの孤立を防ぎ、健やかな成長を促すことができる取組として、「子ども食堂」が注目されています。子ども食堂は、子どもたちが地域の方たちと一緒に食事をするすることで、地域における子どもの居場所として期待されています。

愛知県では、子どもが安心して通える居場所となる子ども食堂の取組を、県内全域で上げていく必要があると考えており、子どもが歩いて行ける範囲の身近な地域で子ども食堂が開設されることを目標に支援を行っています。

この冊子は、子ども食堂に興味がある方や実際に立ち上げてみたいと考えている方の参考としていただくために、実際に子ども食堂を運営されている方からお話を伺ったQ & Aや、立ち上げの手順をまとめ、掲載しています。

本冊子を読まれた方が子ども食堂に関心をもっていただき、こうした取組が広がっていく一助となれば幸いです。

## INDEX 目次

実例に見るあいちの子ども食堂 実施工程・食堂概要・きっかけ・やりがい 3-5

- CASE 1 つしまこども食堂（津島市）……………3
- CASE 2 つなぐ子ども食堂（名古屋市昭和区）……………4
- CASE 3 子ども食堂 ふえりこ（豊橋市）……………5

子ども食堂の立ち上げ者に聞くQ & A 6-11

- Q1 人はどのように集めましたか？……………6
- Q2 場所はどのように決めましたか？……………7
- Q3 活動資金や食材・機材はどのように調達しましたか？……………8
- Q4 気を付けていることはありますか？……………9
- Q5 広報はどのようにしていますか？……………10
- Q6 これから始める人にアドバイス……………11

立ち上げのStep 12-15

データで見るあいち子ども食堂 開設数・運営主体・開設頻度・開設曜日 食事の提供時間・料金設定 16

### CASE

# 1

## つしまこども食堂

[津島市]



実施工程	
2015年12月	つしまこども食堂 Facebook開設
2016年 3月	プレイベント～もちつき～
5月	企画会議
6月	第1回つしまこども食堂開設

  

食堂概要	
開催場所	縁側カフェ「えん」 津島市又吉町2-36
料 金	子ども：無料 大 人：募金をお願い
開所日時	月1回/日曜日不定期12:00～
利用者数	60名～100名
運営者数	16名

### きっかけ

普段は仕事の傍らで、学童保育を運営する「NPO法人放課後のうち」の代表も務めています。学童保育は限られた子どもたちが対象ですが、親が働いているとか働いていないとか関係なく、障害を持っている子も持っていない子も、誰でも安心できる居場所が地域にあったらいいなと思っていました。

3年ぐらい前に「子ども食堂をやりたいな」とFacebookでつぶやいたところ、友達から「介護サービスの仕事をしている妹がやりたいって言うてるよ」とコメントが入りました。そうしたら「私その妹です。やりたいと思っていたの」と会話に入ってきて、「やろうか」とつぶやいたら「場所がないね」とコメントが入り、今度は「しげんカフェ」<sup>注1)</sup>の方が「うち使っていていいよ」とコメントをくれました。あれよ、あれよという間に話がまとまって、2015年の12月に、学童保育の友達も誘って、4名で最初の打合せをしました。いきなり子ども食堂を始めようという人も来ないから、イベントを開催して人を集めて募金してもらい、当初の資金にしていこうということになりました。

年が明けた1月から3月にかけて4回の企画会議を開く中で、徐々に協力者が増えていきました。3月末にプレイベントのもちつきを開催して、たくさんの方に来ていただきました。その後、5月までに第5回の企画会議を開き、5月に「しげんカフェ」で18時から第1回つしまこども食堂を開催しました。

### やりがい

楽しいです！（スタッフ一同）。  
美味しいご飯も食べられるし、いろいろな人たちとどんどんつながりができていくので、すごく面白いです。企画会議での打ち合わせでも笑いが絶えず、「しげんカフェ」の方がいつもゆるい会議で驚いていましたね。それでも、いろいろなことがちゃんと決まっています。

最近では、子ども食堂の後には、「大人食堂」といって、毎回打ち上げをやっています。忘年会では、他の子ども食堂の方も参加されて、「すごく楽しい」と喜んでいました。結局、子どもたちの居場所であると同時に、私たちの居場所にもなっているのだと思います。

もちろん、食事をしに来てくれる方々の笑顔にもたくさん支えられています。テーブルには感想を書いていただくメモ用紙を置いてありますが、毎回そのメモがスタッフの元気の源にもなっています。

子どもたちの「やさいがおいしかった。またきます」や、小さい子を連れてお母さんの「子連れでも気兼ねなく親子で楽しく手作りのご飯が食べられた」、1人暮らしの方の「にぎやかな雰囲気の中で楽しく食事ができた」などの感想を見ているだけで疲れも吹き飛びます。

注1) カフェと資源買取施設を併設し、家庭の資源をポイントで買い取り、カフェのドリンクやフードと交換できる地球環境保護のコンセプトカフェ

CASE

# 2 つなぐ子ども食堂

[名古屋市昭和区]



### 実施工程

2017年 8月 第1回 子ども食堂  
2018年 4月～ 昭和区内を巡回する形で開始。第1回は2018年4月21日(土)なごや防災ボラネット昭和と協働で、「防災」をテーマとした子ども食堂を昭和区役所で開催。

### 食堂概要

開設場所 開設場所:昭和区内のコミュニティセンターなど  
料 金 大人・子ども200円  
開所日時 月1回/土日不定期  
10:00～15:00  
利用者数 15～60名程度  
運営者数 7～8名

## きっかけ

私がはじめに感じていたことは「誰かを助けたい」ではなく、「自分を助けてほしい」ということでした。ママ友と話していても、自分ひとりで子育てをしていて、忙しそうでした。また、自分だけの価値観で子育てをするのは、すごく危ないとも感じました。地域の人が自分の子どもを見てくれたり、叱ってくれたりして、地域の人みんなで子育てする環境を作りたいと思いました。その思いに賛同するママ友など8人で活動を始めました。

はじめは娘が通うそろばん教室をお借りしての開催でした。一般家庭の台所で、たくさんの人数分を調理するのはたいへんでしたが、みんなで協力してご飯を作り、うれしそうに食べる子どもたちを見て、やってよかったと思いました。その後、近所のお寺から「厨房もあるので、うちを使ってください」と声をかけていただき、そこで半年くらい開催しました。お寺での開催が地域に根付き始めた頃に、そこを出て区内を巡回する形に切り替えるのは大きなチャレンジでした。

しかし、それまでの活動を通して、みんなで一緒に作り、食べることや親以外の誰かに誉めてもらう経験が、子どもにとってどんなに大事かを実感していました。巡回すれば、いろいろな子どもたちが少しずつ、そういう経験を積むことができます。昭和区にも子ども食堂がすでにありましたが、11学区すべてにあるわけではありません。子ども食堂のない学区で開催することで、子どもたちにとって楽しい場が増え、こういう活動

に興味を持つ人がひとりでも増えれば、地域にとっていい刺激になるのではと考えました。巡回する意味をメンバーみんなで確認しあい、今の形での開催を決めました。

## やりがい

毎回はじめに開催する気持ちなので、ワクワクするのと同じくらい、「子どもが来なかったら……」と不安に思うこともあります。そこに見たことのない子が来てくれたり、リピーターの子の顔が見えたりすると、毎回うれしくなります。ボランティアのお兄さん、お姉さんと遊びたくて、料理をしない子もいますが、うれしそうにくっついている姿を見ると、本当にかわいいと思います。はじめて参加した子にとって心地いい居場所になり、楽しいと感じてもらえるなら、それがひとりでもふたりでも、大きな実りだと思います。

はじめて開催する地域では理解を得るのが難しい面もありますが、一度やってみると「またやってよ」と言ってくださる地域も増えてきています。子どもや地域の方の笑顔が広がっていることを実感でき、いい居場所を作ることができたのだなと充実感を感じます。子どもが食で町をつなげ、「まちづくり」の意味をなしているとも思っています。

CASE

# 3 子ども食堂 ふえりこ

[豊橋市]



### 実施工程

2018年 3月 愛知県の平成30年度の「既存の社会資源を活用した子ども食堂開設モデル事業委託」に申請  
4月 事業委託の事業者に選ばれたことが公表  
6月 第1回子ども食堂ふえりこ開催

### 食堂概要

開催場所 認知症対応型グループホームフジ 豊橋市前田中町13-29  
料 金 18歳未満:10円  
18歳以上:300円  
開所日時 月1回/第3もしくは第4土曜  
11:00～15:00  
利用者数 50名～60名  
運営者数 34名

## きっかけ

もともとニュースなどで子ども食堂のことを知っていましたので、ずっと何とかしてあげたいと思っていました。しかし、なかなかきっかけがなくて始めることができずにいました。

私どもは今から40年ほど前に医療に従事する中で、地域で困っている高齢者や障害者の方を目の当たりにしていました。そこで総合安全保障基地を作ろうと、福祉村構想が生まれました。ここには福祉村病院を中心に、特別養護老人ホームや老人保健施設、障害者支援施設など多数の施設があります。

このような事業をやっていることもあり、愛知県健康福祉部や愛知県社会福祉協議会の会合に出ています。そこで、愛知県の平成30年度の「既存の社会資源を活用した子ども食堂開設モデル事業委託」を知りました。これはとても良い機会だと思い、すぐに立候補しました。3月に企画書を提出し、4月に10の事業所が選ばれたことが公表され、社会福祉法人さわび会も選ばれました。

はじめは、毎月第3土曜日に開催する予定でしたが、準備の都合で、第1回は6月2日土曜日に、第2回は6月23日土曜日に開催しました。その後、第3土曜日に地域の小学校の行事と重なっていることが分かり、行事の重ならない第3もしくは第4土曜日に開催するようになりました。また、開催時には、食事以外にも学習支援やレクリエーションなども行っています。

## やりがい

子ども食堂をやったことで、学校に居場所のなかった子がここをよりどころに楽しみにしてとても明るくなりました。また、地域のいろいろな方と知り合うことができたのは、とても良かったです。民生委員の方が関わってくださったことで、高齢者の方も参加するようになりました。

子ども食堂を開催したことがきっかけで、「チクチクハンドクラブ」というボランティアグループができました。高齢者と民生委員の方が中心になって、月曜日の10時から、グループホームフジに集まって、皆で雑巾を縫っています。出来上がった雑巾は地元の小学校に寄付して、喜ばれています。活動している方たちが一番喜んでるように思います。子どもたちの居場所だけでなく、高齢者の居場所にもなり、地域の方に喜んでいただけることは、とてもうれしいことです。

